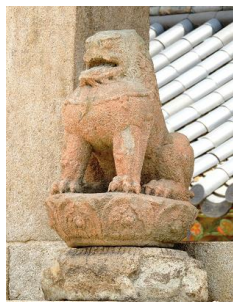


朝鮮石人像を訪ねて (39)

深田 晃二

☆ KBS-TV取材 ☆

通信 272 号の編集後記に 9 月 27 日に韓国 KBS TV の取材を受けた事を書いた。慶州の佛国寺の石獅子



現在残っている石獅子

子 2 体の行方を知らないかと言う取材。無くなった 3 体の内 1 体は大英博物館にあり、2 体は 1910 年頃日本に渡ったと言う本の記述（木村静雄）があるとのこと。

私が石人像を調べている事を飛田さんが取材者側に連絡してくれて関連取材となった。求められたので石獅子情報源として可能性のある京都・高麗美術館を紹介しておいた。

最初の挨拶場面を最終に 5 回ほど撮り直し、壁に掛けている子どもと孫の背タケの記録（柱の傷）の説明もさせられた。撮影は面白い体験だった。

☆ 最近の訪問スタイル ☆

最近ではむくげ通信発行日に合わせて石人像を訪問することが多くなった。今回もタイミング良く発行日数日前の 11 月 24～25 日に東京出張があり、以前からノミネートしておいた数カ所を訪問してきた。偶然の出会いや今までのリストから消去すべき物まで、フィールドワークによる今回の収穫も多かった。

また、移設や移動も結構行われていることを実感しているので報告する。

☆ 東京・京橋 gallely ☆

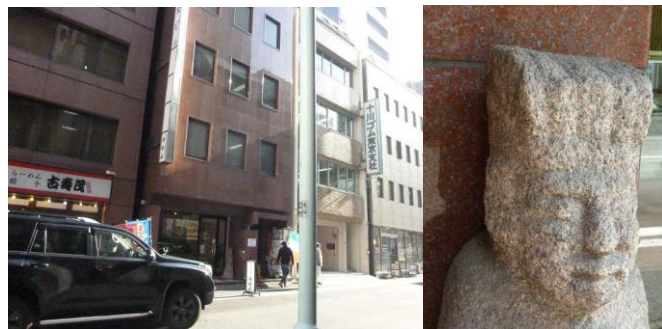
(N35.67655, E139.77169)

期限切れ間近の株主優待券を頂いたので飛行機で羽田空港に着いた後、モノレールと JR を乗り継いで、新橋で下車して SL 広場でクリスマスデコレーションを施された蒸気機関車 C11 を見た。安い立ち食いうどん（丸椅子に座ったが）を食べて、今まで行く機会の無かった京橋の「ギャラリー帝塚山」に向かった。

店の前に着いた丁度その時に女性店長と思われる人がカギを掛けて外出するところであった。石人像を眺めていると、お客と思ったか声を掛けてくれて店に戻って鍵を開けてくれた。石人像の由来を訪ねると、直ぐに電話で社長に確認し「13 年前の開店当時からある。兵庫県の民家にあった物だ」との返事だった。社長の名刺を頂くと、大阪市北区西天満に本社の有る「gallely 帝塚山」である。以前神戸本山中学校の前に

あったギャラリー帝塚山も同系列の店であるとの説明があり納得できた。本山中学前の店は無くなったことを告げると、「大阪のヒルトンホテル（だったか？）に引っ越した」との事である。確認が必要なようだ。

こちらが聞いていないのに値段を教えてくれた。2 体で百万円を超えると聞かされた。市中取引の最近の相場かも知れないが、「ハーそうですか」と聞き流した。



「商品の写真撮影は店内外とも禁止」とのことであったが、町の風景として撮らせて頂いた。内侍像である。

内侍（ネーシ）石人像は普通「波型」の冠であるが、ここの像は「縦縞」のものである。内侍像では初見なので研究課題となった。

☆ 東京・銀座 画廊 ☆

(N35.67202, E139.76289)



帝塚山の女性店長に聞いた情報で行った銀座「日動画廊」では、大型の文人像が 2 体あった。こちらは昭和 10 年頃からあるもので、当時は数多い売り物の一つだったが売れ残り、今はお守りみたいな物だとか。社長とおぼしき恰幅の良い紳士の説明



である。向かって右側の石人は例によって（男児誕生を祈願するお守り用）鼻がかけている。

最近方位磁石を持参しているので、突然聞いたお店でもタブレットで地図を出し、地下鉄駅を確認して、地上に出て方位を確認すれば短時間で訪問できる。京橋・銀座あたりは通りが南北から45度程度傾いていて感では難しいが、便利になったものだ。

☆ 埼玉・所沢 西武球場西 ☆

(N35.77055, E139.41768)

西武球場西側に石人像があるという情報を得て滅多に来られないので確認に行った。所沢駅から西武球場まで足を伸ばし、狭山不動尊・山口観音・観音閣ホテルで、お寺関係者やホテルの人4人に石人像の写真を見て貰ってこんな物は無いかと聞いたが1体も所在が確認できなかった。ユネスコ村は2007年に「ゆり園（5～7月開園）」に変わっている。残念！

シーズンの終わった西武球場連絡鉄道は東京近郊とは思えないほど閑散としていた。

八体守護仏なる石仏があったので写真を撮ってきた。



☆ 東京・駒込 都立染井霊園 ☆

(N35.73711, E139.73732)

25日の朝の散歩は、墓地には何かありそうな予感がして巣鴨のホテルから東京都豊島区駒込の染井霊園を目指した。

岡倉天心や高村光雲・光太郎・智恵子等の著名人が葬られている東京都立染井霊園の1種イ4号20側のK家の墓の前に望柱石2基が設置してあるのを発見した。予想が的中したのがうれしい。

リスのような細虎（セホ）が位置は違うが両方に陽刻してある。向かい合わせに有る扉のヒンジ用と思われる金具が左右2箇所ずつに5cm程の穴を開けモルタルで埋め込んであった。本来の姿を毀損している。

お気づき通り染井の地名にちなむ桜「ソメイヨシノ」はこの地の植木職人が作り出したとされている。染井村には植木職人が多く住み、村全体が花園だったそうである。

墓の同区画には幣原喜重郎（昭和26年没）の墓や二葉亭四迷、若槻礼治郎、水原秋桜子、正岡子規を育てた陸羯南（くが・かつなん）などもここに葬られていると墓地著名人案内リストにある。

☆ ソウル梨花女子大学校博物館 ☆

(N37.56136, E126.94489)

通信271号では足立さんから頂いた梨花女子大博物館前に有る童子像2体、石虎2体、法首2体計6体の写真を紹介した。

今年10月17～25日に梨花女子大に寄宿した仲村修さんから更に多くの写真を頂いたので紹介する



①塀に沿って8体の文人像と2体の武人像がある



②左は童子像、中は文人像、右端は地方の童子像(?)



③童子像1体と文人像4体+七層石塔

(N35.72976, E135.29650)

9月のテレビ取材の時、撮影クルーと共に近所のGデザイン陶器屋さんの前に立つ石人像を訪問し、女性主人に由来を話して貰った。10年前の開店時に岐阜の父親がお祝いに贈呈してくれた物だとのことであった。11月中旬に石人像が見えなくなった。心配したが工事で店内に一時保管しているとの情報を得た。工事が終わるとまた設置されることでしょう。

☆ 神戸市東灘区 古美術商 ☆

(N35.72976, E135.29650)

原稿を書いている日の夕方（11/28）、国道2号



線沿いの古美術商秦の店先で偶然に碑台1基を見つけた。穴罫りが大きいので相当大的な碑の台みたいだ。

（続）